特定非営利活動法人

# エイブル・アート・ジャパン

ABLE
ART
JAPAN

## 2024 年度　事業報告

［期間：2024 年4月1日～2025 年3月 31 日］

2025 年6月 22 日

# ■2024 年度　事業報告

## [2024 年度を振り返って]
### エイブルアート・ムーブメントの現在

1995 年に生まれた「エイブル・アート・ムーブメント（可能性の芸術運動）」の思想を生み、1994 年に任意団体（日本障害者芸術文化協会）として発足した弊団体を 2011 年まで常務理事の立場から牽引した播磨靖夫さんが、2024 年 10 月３日、永眠された。2011 年の NPO 法人化の過程で、「社会の芸術化・芸術の社会化」というビジョンを示し、その後、2011 年３月の東日本大震災の発災を契機に、法人のミッションである「いのちへの問と芸術文化の可能性」を拓く活動拠点として、東北事務局の開設を全面的に支え、ほぼ毎年のように奈良から東北へ陸路・新幹線で応援に来てくれた播磨さんだった。
この間、2018 年の障害者文化芸術推進法の成立、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会、そして新型コロナウイルス感染症の流行や能登地震発災など、社会的な事象のなか、法人はさまざまな失敗も成功もこつこつと重ねてきた。
播磨さんの旅立ちのあと、まもなくして特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパンが、令和6年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰功労者賞を受章した。30 年にわたり、障害の種別や有無をこえて、生涯学習機会の創出や普及を展開してきた活動に対してという。法人が行う草の根の取り組みも、現在は省庁をこえた政策や市民協働に少なからず影響を与える立場になってきている。
活動の中心にある、よりよく生きたい、それを支える豊かな地域社会づくりに貢献したいというシンプルな願いを、障害のある人、家族や支援者、ボランティア、そしてスタッフとともに発信し、実装していく・・・。このムーブメントの想いを、改めて、新しい時代とこれからの人たちにつなぎたいと考える日々である。

## [2024 年度の行動指針]

▲印：結果コメント

1. **NPO の理念と支援への協力を発信（基盤のリニューアル）（再掲）**
エイブルアートの理念、そして活動の今を知っていただき、ファンをつくり、共感をバネに協働者や会員、寄付者を増やしていく挑戦を継続します。オンラインサロン、事業報告会のオンライン化、そのアーカイブと発信等です。またウェブサイトのリニューアルに取り組み、SNS の更新と連動していきます。
▲ウェブサイトのリニュアルに向けて、外部の専門家（ウェブデザイナー）とともに新旧のスタッフが法人の歴史や活動の参画者、これからのコミュニティについて議論した。サイトマップ、ワイヤーフレームが完成し、2025 年に改修に着手する。
・SNS の活用の戦略は、2025 年予算を確保したため、プロジェクト単位で学習と実践を重ねる。

2. **オンラインによる未来志向の実践（再掲）**
オンラインは、物理的な空間をこえて対話できることを実感できる利点もあります。この時代に私たちが与えられたひとつのメディア（道具）として、オンラインともうまくつきあっていくような知恵を、とくに障害者・生活困窮者・高齢者等のNPOの現場とも共有します。学習支援環境の劇的な変化が先行する子ども支援、教育支援 NPO にたくさんのヒントがあるはずです。異業種の活動に学びながら実践を高めます。
▲オンライン会議、オンライン鑑賞会、オンライン交流会、オンラインシンポジウムなどの実施が増えた。必要時、手話通訳や文字情報の表記など、情報保障にも対応している。
・障害のあるアーティストのうち、外出困難な人、地方居住者、対人コミュニケーションが苦手な人などを中心に、オンラインを通じて交流・学習する機会を増やした。
・海外、また全国の美術館や教育機関等との交流が増えた。
・各種事業で実施している研修を動画で保存し、新任者研修・中堅職員研修などで活用している。

3. **社会に生じる新たな‘障害’に向き合い、その課題解決を通じて事業（仕事）を生む（再掲）**
コロナ禍、社会に生じる‘障害’に向き合い、その課題解決にむけて活動していたら、いつの間にか事業が生まれ、また支援の輪が広がりました。NPO の財源バランスにとって重要な、自主事業～自ら仕事をおこし、持続していくための事業を、このターニングポイントにこそ開発していきます。
▲高齢化、少子化、人口減など日本社会の抱える課題はさまざまにあった。
・家庭教育や学校教育とは別の「社会教育／生涯学習」のニーズの高まりがあり、芸術文化活動に求められる役割も大きいと感じる。とくに、地域の身近な場所で行われる創造活動と、それを創出するコーディネ

ータやアーティストの役割に着目した活動をスタートした。「全国こども食堂支援センターむすびえ」と国内のアート NPO や文化財団とともに、こども食堂で活動を実施し（2023・24 年度）、2025 年度からネットワーク化と実践を継続する。

**4. 組織基盤の強化（再掲）**

2019 年度の振り返りのなかで課題になった点「組織基盤強化」に着手したいと考えています。法人の運営を担う中堅職員の雇用、法人の各種規程の整備と改訂、そして会員の仕組みについての見直し等です。理事やスタッフ、第3者を含めてワーキングチームをつくり取り組みます。

▲労働法に即した働き方や諸規程の整備に着手している。具体的には 36 協定の締結、フレックス制の導入、勤怠管理のシステム化、です。他組織で活躍してきた中堅職員の入職があるが、こうした人材が個人としても、組織の一員としても能力を発揮できる組織文化をつくる必要がある。

・一部の業務については、社会保険労務士と連携をした。

## [スタッフ体制]

【法人本部/東京事務局】

渡邊　遥（常勤/2023 年 10 月～2025 年４月）

一般企業の社内デザイナー、大学の専任助手を経て入職。ミュージアム・アクセス・センター設立普及事業、東京事務局に関する全体の事業を担当。2024 年６月から事務局長補佐兼務。

水野　拓哉（常勤/2023 年 10 月～2024 年８月）

イギリス大学院の美術教育普及を修了、インフラエンジニアを経て、ミュージアム・アクセス・センター設立普及事業、法人のデータベース管理・活用、広報活動を担当。

鹿島　萌子（常勤/2024 年９月～）

文化施設スタッフとして、イベントやプロジェクトの企画・運営、情報保障支援策の検討・試験的運用などに従事。入職後は、ミュージアム・アクセス・センター設立普及事業を担当。

内野　悦子（非常勤/2015 年９月～）

法人事務局の経理、労務を担当。

原衛　典子（非常勤/2019 年４月～）

家業の経理事務に従事。法人の広報活動およびミュージアム・アクセス・センター設立普及事業を担当。

今野　優紀（非常勤/2021 年８月～）※2024 年９月から産休・育休中

デザインの展示施設にて企画アシスタント、障害のある人の表現活動を社会に伝えるプロジェクトにて展覧会事業を担当する等、主に展覧会の制作やマネジメント、コーディネートを務める。入職後は、ミュージアム・アクセス・センター設立普及事業を担当。

**【東北事務局】**

伊藤　光栄（常勤/2021 年６月～2024 年８月）※2024 年９月からプロジェクトスタッフ（非常勤）

特別支援学校教員やイラスト制作会社、遊漁船業を経て入職。障害者の生涯学習事業、エイブルアート・カンパニー事業、南東北・北関東広域センター（専門的支援/生涯学習）、法人のデータベース管理・活用、広報活動を担当。

高橋　梨佳（常勤/2022 年５月～）

元生涯学習施設のバリアフリー担当職員のなか、エイブルアートの各種事業にボランティアとして参加し、その後、入職。障害者芸術活動支援センター＠宮城、南東北・北関東広域センター、オープンアトリエ事業、ミュージアム・アクセス・センター設立普及事業、広報活動を担当。2024 年６月から事務局長補佐兼務。

伊藤　いづみ（非常勤/2021 年６月～）

2018 年から家族とともにエイブルアートのアトリエ＆スタジオに参加。おもにオープンアトリエ事業、ショップ事業、東北事務局の経理・総務を担当。

渡邊　悠太（非常勤/2024 年８月～2025 年１月）
障害者の生涯学習事業を担当。

**【エイブルアート・カンパニー東京事務局】**
中塚　翔子（常勤/2016 年７月～2025 年１月）
社会福祉法人わたぼうしの会所属/一般財団法人たんぽぽの家出向。エイブルアート・カンパニー東京事務局の業務を担当。

大井　卓也（常勤/2021 年 12 月～）
一般財団法人たんぽぽの家所属。2021 年 12 月からエイブルアート・カンパニー東京事務局の業務を担当。

松岡　智子（非常勤/2024 年 10 月～）
一般財団法人たんぽぽの家所属。登録作家の作品使用に関する連絡業務や、ウェブサイト更新、SNS 配信を主とした広報業務等を担当。

## [スタッフ体制を振り返って]

・東京事務局４人（常勤２・非常勤２）：１名退職（2024 年８月）、１名入職（2024 年９月）
・東北事務局４人（常勤３・非常勤１/2024 年８月まで、常勤２・非常勤２/2024 年９月から）：東北常勤１に疾病が生じ数ヶ月の療養が生じたため、４月末に退職を予定していたものに８月末までの期間延長を依頼、その後も、非常勤で業務を継続した。非常勤を短期間雇用した。
・事務局長補佐を２名配置。理事会、総会、人事に関する業務などを担った。
・常勤スタッフは、職歴や経験値をもとに、チーフ職として、事業の申請や企画提案、進行管理、予算管理等を総合的にマネジメントに従事した。
・必要時に在宅勤務やフレックス制を継続した。コミュニケーションツール（Google Workspace や slack 等）を活用し、各事業のタスク管理をオンライン上で行い、これを事務局長ほかスタッフが常時確認できるようにした。
・東京と東北の合同スタッフ会議をオンラインで月１回開催。上半期は組織全体の事業への理解、情報交換を実施し、後半は、活発化する事業にあわせて、具体的な連携を促した。

✖印：未着手、▲印：部分的に実行、
●印：新規での取り組み

# ■事業内容

## [総務]

### 1. 会議等の業務

【第 14 回通常総会の開催】
日時：2024 年６月 22 日(土)10:00-12:15
場所：東京事務局、東北事務局、オンラインミーティングシステム Zoom 会議
2023 年度事業報告（案）・活動計算書決算（案）の承認
2024 年度事業計画（案）・活動計算書予算（案）の承認

【第 25 回理事会の開催】
日時：2024 年５月 22 日（水）18：30～20：30
場所：品川駅港南口協働スペース（品川駅前）およびオンラインミーティングシステム Zoom 会議室
2023 年度事業報告（案）・活動計算書決算（案）の承認
2024 年度事業計画（案）・活動計算書予算（案）の検討　ほか

＊●：通年を通じて個別相談も随時行った（人事、体制、事業など）

## 2. 会員に対する業務

・会員の入会、継続、休会に伴う業務
・2023 年度事業報告・活動計算書および 2024 年度事業計画（案）・活動計算書（案）の送付
・ニュースレターと事業案内を発送（年２回）およびウェブサイト、SNS による発信強化

## 3. 経理等の業務

・資金管理として、現預金等の日常の管理状況を明らかにする。顧問契約は、エバーグリーン税理士法人（東京）
・運営基盤の確立のために月次ごとの収支計画をたて、確実に遂行▲：半期ごとのペース
・税務に関する業務として、法人税や消費税、源泉徴収税等の税務関連の業務

## 4. 労務管理等の業務

・2024 年度に職員給与の検討を行った●：業務量に応じた俸給表の号数の判断
・法人に関連する業務を行うスタッフの労務面等において配慮
・各種規程・規則の変更を検討▲：ワーキングチームがつくれていないままだったが、2025 年 1 月の港区労働基準監督署からの指導に応じて、36 協定の締結、フレックス制の検討、勤怠管理のシステム化に着手
・ハラスメントの禁止、教育訓練、職員の休日

## 5. 総務関連等の業務

・業務運営に必要な届出業務
・NPO法人としての東京都への 2023 年度事業報告・活動計算書の提出（総会後６月末完了）
・当法人に依頼がある後援名義の借用等の検討と対応

## 6. 広報・寄付キャンペーン等の業務

・ウェブサイト、Facebook、データベースを活用した広報活動
・寄付キャンペーンの実施
・会員の仕組みの見直し、増員キャンペーンの実施✖：未着手
・データベースの活用：個人や団体に付属するカテゴリーの整理、スタッフが名刺交換した人たちのデータの一元管理、寄付の呼びかけやキャンペーン案内、セミナーや展覧会情報等の発信・申込み管理等を実施▲：助成金を通じて運用マニュアルを作成したが、主担当退職のあとは常時活用ができていない
＊ウェブサイト更新における事業パートナー：北田郭時（広報・ウェブサイトの更新で事務局運営をサポート）

**【情報収集・発信（2024 年４月～2025 年３月）】** ＊新聞等メディア実績は同封の「資料」参照

| 事務局 | 媒体 | 投稿数 | アクセス数 |
|---|---|---|---|
| 法人本部 | ホームページ | 54 | 40,384 |
| | Facebook（フォロワー4,741 人） | 85 | 46,910 |
| | Instagram（フォロワー587 人） | 14 | – |
| 東北事務局 | ホームページ | 42 | 45,781 |
| | Facebook（フォロワー1,202 人） | 131 | 45,564 |
| | Instagram（フォロワー568 人） | 58 | 50,981 |
| | YouTube チャンネル（登録者数 90 人） | – | – |
| みんなでミュージアム | ホームページ | 28 | 25,143 |
| | Facebook（フォロワー196 人） | 47 | 13,568 |
| | X（フォロワー177 人） | 167 | – |

7. そのほか
本法人とエイブルアート・カンパニー東京事務局の事務所経費の内容を見直した（地代家賃、水道光熱費、通信費等）

## [総務部門を振り返って]

1. 総会、理事会、会員に関する業務の体制の見直し
・スタッフが増え、理事会や総会資料、会員向けニュースレターの作成を分担することができている。
・会員へのニュースレター発行および会費案内業務には、ボランティア（障害のある人含）も参加。
・会費未納等により自動的に退会扱いも微増。
・企業会員とは、具体的な事業実践（スカラシップ事業）や、新たな協働（社員向け研修）に向けてコミュニケーションを継続。
・2024 年度から事務局長補佐を 2 名配置したことで、事務局長の療養期間にも法人運営は継続することができた（理事とも連携）。ただし、理事会は春に1回しか開催できていない。

2. 総務、経理の体制の強化
・事業規模の拡大に合わせ、支払い業務等のヌケモレを防ぐよう仕組みを見直し、それを継続。
・国の委託事業（とくに文化庁・厚労省・文科省）決算時の業務対応のため、内部人材で体制の見直しをはかりこれを継続。中堅スタッフも会計にかかわることで、自主事業の開発や見積もり、対外的な営業活動、NPO の経営について学ぶ機会にもなっている。

3. 広報まわりの体制の強化
・現在、ウェブサイト・Facebook・インスタグラム・YouTube チャンネル等多様な広報メディアを使用。それぞれの特性と広報戦略について、2023・24 年度から外部専門家を招き、学びの機会をもち、NPO 活動にとって最適な手法や持続可能な運営を探ったが、担当するスタッフの体制が安定せず、学びを効果的に活かせていない状況が続いているため、2025 年度からの活動に活かしていく必要がある。
・スタッフ自らが活動を言語化し、それを講演、ウェブや SNS で発信し、かつ外部メディアに寄稿した。

## [企画事業]

### □ 事業のハイライト

・東京事務局では、文化庁委託事業である「ミュージアム・アクセス・センター設立事業」について、段階的に取り組みを進めてきた。初年度（2021 年度）は、調査・ヒアリングを実施し、2 年目（2022 年度）は、それを踏まえた具体的な実践および事業提案を展開。3年目（2023 年度）には、相談支援、人材育成（手法の検討）、実践、ネットワーク化を並行して進め、システム運用を開始した。4 年目となる 2024 年度は、活動範囲を首都圏から全国へと拡大し、活動後の自走化を視野に入れたモデル普及を進めた。
・東北事務局は、厚労省「障害者芸術文化活動普及支援事業」のうち、宮城県の支援センターが 11 年目（モデル事業4年含）、 南東北・北関東広域センターが4年目となり、担当できるスタッフも拡充しつつある。文科省「障害者の生涯学習に関する実践研究」も4年目となり、NPO 主体の活動3年を経て、2024 年度は、仙台市教育委員会主体のコンソーシアムに発展し、弊団体はモデル事業およびコンファレンス企画運営の受託団体となった。福祉・文化・教育・経済分野を横断した中間支援組織の活動として、国（文化庁・厚労省）の調査におけるヒアリングを受けたり、地方自治体からのコンファレンス招聘の機会がふえつつある。

1. A/A gallery 事業
【方針】
2023 年3月のアーツ千代田 3331 からの退去とともに、場は閉鎖したが、エイブルアート・カンパニー登録作家、MHD スカラシップ事業、相談支援業務からの発展等で、個別に対応している。

2. A/A shop 事業
【方針】ネットワーク化、人材育成に資するもの、収益が見込めるものに限って対応した。

【内容】

Fujisakiday（2024 年9月 14 日・15 日＠八木山動物公園フジサキの杜）
せんだいクラシックフェステイバル（2024 年 10 月4日～10 月6日＠日立システムズホール仙台）
第7回障害と芸術文化の大見本市（2025 年1月 31 日～2月5日＠せんだいメディアテーク）

## 3. エイブルアート・スタジオ事業

**【方針】**
A.運営委員会による独立採算事業を実施する。
B.セミナーやサロン等、人が集う場や企画を実施する。

**【内容】**
**■東京会場**
会場：泉岳寺 庫裏（東京都港区/2023 年3月 26 日より）

| 活動名 | ファシリテーター | 活動日 | 登録メンバー数、参加費 |
|---|---|---|---|
| アトリエ・ポレポレ | サイモン順子 | 毎月第2、4土曜日<br>13:30～17:00 | 登録メンバー：25 人<br>年会費 5,000 円　1回 2,500 円<br>ビジター会員 |
| エイブルアート芸術大学 | 中津川浩章 | 毎月第1土曜日<br>14:00～17:00 | 登録メンバー：30 人<br>年会費 3,000 円　1回 2,500 円 |

特記：
・ポレポレの運営は渡辺一充さん、芸大の運営は宮原さんと、家族・ボランティアが中心。
・港区 NPO 活動助成金に申請し、バリアフリー対応等環境整備を行った。
・エイブルアート芸大作品展「みんなのなかに光があるよ！」を開催。
会場：高輪区民センター
日時：2025 年2月 16 日(日)～19 日(水)
特記：港区移転後初となる展覧会を実施。参加メンバーは 20 人、作品数は 164 点。来場者数は、延べ 248 人。展覧会初日には、出展メンバーやご家族と、ファシリテーターの中津川浩章氏によるギャラリートークを開催。明治学院大学の学生にもボランティアで参加してもらった。

作品展会場の様子

**■東北会場**
会場：上杉コミュニティ・センター（仙台市青葉区/2024 年7月より）
特記：2018～2021 年度までは東京 2020 オリンピックパラリンピック競技大会に伴う仙台市文化プログラムとして実施。2022 年度から公益財団法人仙台市市民文化事業団の助成事業に申請し採択。継続して実施することができている。

「アトリエつくるて」

| 活動の種類 | 活動内容 | ファシリテーター | 活動日程 | 参加者数、参加費 |
|---|---|---|---|---|
| 創造 | 定期的なオープンアトリエの実施 | 佐竹真紀子<br>しょうじこずえ<br><br>ゲストファシリテーター | 年6回 | 65 人、1,000 円 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 10/26 おりがみくん<br>11/30 門眞妙<br>12/21 菊池聡太朗 | | |
| 対話企画 | 宮城県内でさまざまな人がともに表現する場をひらいている活動の事例紹介を通じて、ともに表現する場の持つ意味や、環境づくりの工夫を共有するトーク「つくる・みる・はなす・いるともに表現する場ってどんなところ？」を実施。 | 【話題提供①】佐竹真紀子（アトリエつくるてファシリテーター）、佐藤莉香（アトリエつくるて参加者）、武田脩生、武田美奈子（アトリエつくるて参加者）<br><br>【話題提供②】高田彩（ビルド・フルーガス代表、塩竈市杉村惇美術館統括）<br>コメンテーター：郷泰典（宮城県美術館教育普及部上席主任研究員） | 2025 年２月２日（日）<br>場所：せんだいメディアテーク1階オープンスクエア | 来場者 50 人<br>参加費無料 |

「みんなでつくるよ広場の人形劇！」

| 活動の種類 | 活動内容 | ファシリテーター | 活動日程 | 参加者数、参加費 |
|---|---|---|---|---|
| アウトリーチ | 出張ワークショップ<br>実施先：①自立訓練（生活訓練）事業所きおっちょら、就労継続支援 B 型事業所はるのひ文庫<br>②就労移行支援事業所アクセスジョブ仙台 | 工藤夏海（美術家） | 年２件 | ①14 人<br>②15 人 |
| 発表 | ぶらんど～む一番町商店街にて、一般社団法人アート・インクルージョン主催の「お花見マルシェ」で大ダコをつくる工作とそれを持って練り歩くパレード〈たこぱ〉を実施した。 | 工藤夏海（美術家） | 年１回<br>・2025 年３月 15 日（土）<br>（アート・インクルージョン主催：お花見マルシェ） | 参加者 19 人<br>参加費無料 |

アトリエつくるて

人形劇出張ワークショップ

## 4. エイブルアート・カンパニー事業

**【方針】**「障害のある人のアートを社会に発信し、仕事につなげる事業」の窓口として活動を展開する。

エイブルアート・カンパニー

**【内容】**

### A. 基盤整備

第 14 期新規アーティスト4人が 2024 年9月1日デビュー。これで登録アーティストは全 122 人、登録作品は 12,945 点となった。作家との確認や登録作業に時間を要し、例年より登録に時間がかかってしまったという課題はあるものの、新規4作家の初採用は例年よりも早く創出することができた。
3法人4事務局間のコミュニケーションツールの活用や情報共有、業務のタスク管理の継続。

### B. 著作権マネジメント

特徴的だった取り組みとしては、トヨタ自動車株式会社との協働による、社員用バスのラッピングへの採用といった、これまでにあまりなく、また規模の大きい使用があった。また、昨年度採用された菅公学生服株式会社との取り組みに関しては、「高校生ボランティア・アワード」の賞品としてエイブルアート・カンパニーの作品を使用した T シャツが採用されるなど、更なる広がりを見せている。
また、活動の広がりという観点からは、株式会社クリエイティブマンプロダクション、および株式会社フェリシモと取り組んでいる寄付付き商品（基金）の売り上げを、能登半島地震による被害を受けた障害のある人のアート活動を行う団体に関する訪問調査の費用や、各団体への寄付金として活用するといった取り組みを行った。

【事例】
□トヨタ自動車株式会社
愛知県内の拠点を繋ぐバスのラッピングにカンパニーアーティストの描き下ろし作品が採用。

トヨタ自動車株式会社バスラッピング

□カンコー学生工学研究所（菅公学生服株式会社）
カンコー学生工学研究所では、福祉と制服と学生をアートでつなぐ「エイブルアート・ユニフォームプロジェクト」を展開。2024 年度は、高校生ボランティア・アワードで「カンコー学生服賞」を選出し、副賞としてエイブルアート・T シャツの製作権を授与。
また、日本ハンドボールリーグが主催する LEAGUE H in 倉敷のスタッフウェアとしてエイブルアート・ユニフォームが採用。

□無印良品・イオンモール橿原（株式会社 良品計画）
2025 年3月1日（土）にグランドオープンした「無印良品　イオンモール橿原」店の壁面デザイン、ギフトカード、記念ノベルティ（トイレットペーパー）に登録アーティストの作品が採用。オープニングイベントではシルクスクリーン体験ワークショップも開催され、登録アーティストがお客様たちと交流した。

### C. アーティスト個人にフォーカスを当てた取り組みの企画・実施

・作家との密な連携を図りながら協働を行い、多様な描きおろしへの対応を継続した。
・作品の二次利用だけでなく、より作家本人の創作や人間性に視点を向け、直接的なサポートにつながる事業を実施。アーティストとしての成長を促すとともに、作家個人の周知や社会への進出に向けたマネジメントを行った。

【事例】
□MHD Artists Scholarship Program（MHD アーティスト・スカラシップ・プログラム）

法人会員である MHD（モエヘネシーディアジオ）Public Affairs＆CSR との取り組み。エイブルアート・カンパニーの登録作家に加え、社員交流したアーティストから、スカラシップ対象者を募集。2024 年度は、応募7件（9アーティスト）で、4件（6アーティスト）への支援が決定。2025 年1月に中間報告会実施済。2025 年7月に報告展示会を実施予定。

### D. メイク講座

障害のある人のメイクや身だしなみを支援する、株式会社ハーバー研究所（美容部、経営企画部宣伝・PR課）との共同開発事業。2024 年度は4年ぶりに対面講座を開催した。受付、ヒアリング、当日の運営サポート、アンケート回収等の業務を行った。
□基本コース：9月 21 日（土）、2025 年3月9日（日）13:00-15:00
□チャレンジコース：12 月 21 日（土）13:00-15:00
会場：ハーバー研究所本社1階（東京都千代田区神田）
参加者合計：13 人、視覚障害、聴覚障害、知的障害、発達障害、精神障害の人が参加した
□コロナ禍で開発した、福祉事業所や自宅で取り組める動画の配信と教材の提供を行う「オンラインメイク講座」も継続した。
参加者合計：29 人（個人1・団体2）、居住地：宮城、滋賀、大阪

## 5. 鑑賞支援事業

### A. 美術と手話プロジェクト

【主な活動内容】
・プロジェクトメンバー定例会議（月1回）
・手話通訳の提供、美術館、企業、行政、教育機関等との連携事業
・外部から寄せられた手話通訳や文字通訳つきのプログラムについて「情報ひろば」への掲載
・自主事業の企画・検討
【事例】
・東京都現代美術館「MOT アニュアル 2024 こうふくのしま」展関連プログラムおしゃべり鑑賞会（手話通訳つき）の企画・運営

＊事業パートナー：西岡克浩（プロジェクト代表/会社員、AAJ 会員）、市川節子（手話通訳士）、太田好泰（NPO 法人代表、AAJ 会員）、小谷野依久（会社員、東京都中途失聴・難聴者協会理事）、田中真理子（手話通訳士/大学学生支援）、和田みさ（手話通訳士）、柴崎由美子（AAJ 理事）、高橋梨佳（AAJ スタッフ）
（詳細）http://art-sign.ableart.org/

おしゃべり鑑賞会（手話通訳つき）

### B. 企業・社会貢献事務局＆首都圏の美術館等　鑑賞　運営サポート

・三菱商事株式会社社会貢献事務局からの依頼により、国立新美術館「マティス 自由なフォルム」障がいのある方のための特別鑑賞会についての広報協力。
・トヨタ自動車株式会社社会貢献推進部共生社会推進室 SO・文化貢献グループと、アクセシビリティに関する情報交換を実施。その後、仙台市市民文化事業団のリラックス・パフォーマンス見学（トヨタ自動車）、トヨタ・ロビー・コンサート見学（みんなでミュージアム）の相互交流・見学。

### C. 六本木アートナイト 2024 関連企画　インクルーシブ・アート プログラム　企画運営

リアル開催およびオンライン開催を各1回実施。
期間：2024 年9月 29 日（土）・30 日（日）
全体総括：六本木アートナイト事務局
企画協力・コーディネーター：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

**【プログラム①】鑑賞ツアー「ワタシの感覚を見つける、シェアする鑑賞ツアー」**
※手話通訳あり
・日時：9月 30 日（日） 16:00-18:00
・会場：現地（六本木ヒルズ内）
・対象：鑑賞会に関心のあるすべての人、感覚特性がある人など（定員 10 名程）
・参加者：12 人（うち精神障害・発達障害等8人、聴覚障害1人）
・内容：六本木ヒルズ内内展示の作品を中心に、感覚特性のあるファシリテーターとともに対話による作品鑑賞を行った。ツアー後には参加者全員で感想を共有する時間を設け、対話を深める構成とした。

鑑賞ツアー

・実施体制
ファシリテーター：岩田ゆず子（感覚特性）、阿部万里奈（感覚特性）
手話通訳士：小松智美、石川ほとり
ラーニングキュレーター：白木栄世（森美術館）
進行：エイブル・アート・ジャパン

**【プログラム②】オンライン鑑賞会「じっくり、まったり語らナイト」**
・日時：9月 29 日（土） 18:00-20:00
・会場：オンライン（Zoom）
・対象：鑑賞会に関心のあるすべての人、実際に六本木アートナイトへ行くことが難しい人など（定員 10 名程）
・参加者：7人（うち精神障害等2人）
・内容：視覚障害のあるファシリテーターと一緒に、六本木アートナイトの作品を鑑賞しながら自由に想像を膨らませて対話をするオンラインプログラムを実施した。
・実施体制：
ファシリテーター：井戸本将義（視覚障害）、佐々木奈央（視覚障害）
進行：エイブル・アート・ジャパン

## D. リラックス・パフォーマンス「さぁ行こう！ マリンピアと音楽の旅へ」運営サポート

障害児者等を対象としたクラシックコンサートを開催するのにあわせ、広報・アクセス・鑑賞等の支援を行った。（宮城県障害者芸術活動支援センター業務）
・日時：2024 年8月 25 日（日）2回公演

## E. 国立アートリサーチセンター主催「NCAR シンポジウム 003 美術館のアクセシビリティー 共生社会に向けて、対話のある“合理的配慮”とは？ 」への登壇および運営サポート

独立行政法人国立美術館国立アートリサーチセンター（通称：NCAR） が主催する「美術館のアクセシビリティ」がテーマのシンポジウムのうち、「1．見えない方とともに-京都国立近代美術館」に当法人理事の光島貴之さんが、「3．外出が難しい方とともに―『みんなでミュージアム』」に代表理事の柴崎由美子、エイブルアート・カンパニーアーティストのカミジョウミカさんが登壇。あわせて、6人のボランティアスタッフとともに当日の障害のある来場者にかかる運営のサポートを実施した。

「NCAR シンポジウム」の様子
提供：国立アートリサーチセンター（NCAR）

・日時：2024 年9月 23 日（月・休）14:00-17:00
・会場：国立新美術館 3階 講堂
・定員：150 人

F. **国立アートリサーチセンター主催ミュージアム・アクセシビリティ講座「ふかふか TV」協力**

独立行政法人国立美術館国立アートリサーチセンターが配信するミュージアムにおけるアクセシビリティについて学ぶ e ラーニング講座「ふかふか TV」で制作協力として関わった。また、スタッフも1名講師として登壇。
キービジュアルとして使用している作品は、エイブルアート・カンパニーより作品データを提供（ウルシマトモコさん）。

ふかふか TV キービジュアル

G. **横浜トリエンナーレ関連企画　アクセスプログラム　企画協力**

横浜美術館の教育普及グループから、すべての人が横浜トリエンナーレを楽しめる鑑賞プログラムの企画協力の依頼があり、「オンラインで楽しむ妄想モクモク鑑賞会」を実施した。プログラムでは、普段作家活動をされているカミジョウミカさん、天水みちえさんをファシリテーターに迎え、住む場所や暮らし方の違う多様な人と一緒に、オンラインで作品を鑑賞した。
日時：2024 年5月 18 日（土）　13:00-15:00

## 6. 企画制作事業

### A. ［全国］ミュージアム・アクセス・センター設立事業（文化庁委託事業）

4年目の活動となる 2024 年度は、ミュージアム・アクセス・センターの実践を引き続き展開していくとともに、首都圏でのモデル普及の拡大に着手し、2025 年度（令和7年度）の全国へ拡大を見すえ、ネットワークの構築に着手した。また、専門家を交えてロジックモデルの策定に取り組むことで、活動の成果やみんミが目指す状態を明確化した。

みんなで
ミュージアム

実践の紹介動画

【ワーキンググループ】 みんなでミュージアムメンバー（外部）3人　事務局6人

【事業概要】
□ミュージアム体験を豊かにする障害のある人との実践、研修のうち、ミュージアムの環境づくりの実践（東京・神奈川・埼玉・宮城・山形・福島・長野・岐阜・愛媛・鳥取）

・外出が難しい人、発達障害、精神障害/横浜トリエンナーレ
・さまざまな障害のある人への会場レポート/NCAR シンポジウム
・発達障害、精神障害、聴覚障害/六本木アートナイト
・視覚障害、聴覚障害、車椅子ユーザー/川崎市立日本民家園
・発達障害/ねりまフォーラム（ちひろ美術館・東京）
・聴覚障害/埼玉県立近代美術館
・車椅子ユーザー、視覚障害、聴覚障害、知的・発達・精神障害/宮城県文化振興財団
・視覚障害、発達障害、精神障害/仙台・宮城ミュージアムアライアンス研修会
・視覚障害、知的障害/山形美術館

視覚障害当事者コーディネーター実践
（川崎市立日本民家園／神奈川県川崎市）

・精神障害、視覚障害/福島県博物館連絡協議会
・難病・身体障害/安曇野アートライン推進協議会
　岐阜県美術館
・発達障害、精神障害、知的障害、身体障害/愛媛県美術館
・聴覚障害/鳥取県アートミュージアム連携協議会

聴覚障害児および知的発達障害者とのパートナー実践（八王子市夢美術館/東京都八王子市）

□ミュージアム体験を豊かにする障害のある人との実践、研修のうち、障害のある人の鑑賞サポートの実践（東京）
　聴覚障害、知的障害、精神障害/東京
　視覚障害、難聴障害、ダウン症、自閉症、精神、内部障害/東京
　視覚障害、聴覚障害、発達障害、精神障害/東京

□オンラインプログラム「みんミの“わ”」：年3回
概要：障害のある人やその支援者、ミュージアム関係者やミュージアムが好きな人など、さまざまな立場と地域の人が集まり、ミュージアムとアクセシビリティについて学び合うオンラインプログラムを実施。
開催形式：オンライン配信（Zoom）、情報保障付き（手話通訳・文字通訳）
【みんミの“わ”第 10 回】横トリでファシリテーターデビュー！ ～横浜トリエンナーレのオンラインで楽しむアクセスプログラムを振り返る～
・実施日時：6月 30 日（日）14:00-16:00
・申込者：28 人
【みんミの“わ”第 11 回】談話室に集合！いろいろな人と美術館の楽しみ方を考える試み～京都市京セラ美術館の「ぽよよんタイム」の事例から～
・実施日時：9月1日（日）14:00-16:00
・申込者：28 人
【みんミの“わ”第 12 回】「やさしい日本語」がミュージアムとつながるきっかけに～ミュージアムの実践事例から考える～
・実施日：12 月 11 日（水）19:00-21:00
・申込者：74 人
□シンポジウム：1回
概要：オンラインプログラム「みんミの“わ”」の一環で、ひととミュージアムを「つなぐ」ひとや仕組みに注目するシンポジウムを開催。みんミの今年度の活動や成果の共有に加え、ゲストからの話題提供およびパネルディスカッションを実施。
・実施日：2月 22 日（土）14:00-17:00
・申込者：117 人
□交流会：年2回
登録者同士の情報交換を促し、各地域での自主的な活動や体制の構築につなげることを目的に、交流の機会として交流会を開催。1回目は対面で、2回目は対面とオンラインのハイブリッド形式で実施。
【第1回】
・実施日時：7月 27 日（土）10:00-11:40
・会場：港区立男女平等参画センター（愛称「リーブラ」）学習室 C
・参加者：20 人

第2回交流会の様子

【第2回】
・実施日時：2月 24 日（月・祝） ①対面　14:00-16:30、②オンライン 15:30-16:30
・会場：①港区立男女平等参画センター（愛称「リーブラ」）学習室 C
・参加者：①対面 13 人、②オンライン5人

□みんなでミュージアムメンバーによる事業化定例会議：12 回
□相談支援　相談件数：41 件、相談回数：256 回
□事業の評価と普及活動（専門家を加えた評価指標づくり）：4回＋ブラッシュアップ
□モデル普及に向けた準備/会議、意見交換：5回
□提言活動：年4回
□情報収集と発信：年 250 件程度

## B. ［東北］障害者の生涯学習をテーマにした実践研究

**①令和6年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」仙台市・生涯学習を通じた共生社会推進事業**

令和6年度は、文部科学省の事業を仙台市（教育委員会）が受託し、弊団体が事業の一部の再委託をうけて、以下の事業に取り組んだ。

□コンソーシアム年4回（7・9・11・2月）、委員 20 人、オブザーバー7人、事務局7人
市関係課（障害福祉・特別支援教育・生涯学習）や市民利用施設を管理運営している市外郭団体、ミュージアム関係団体、福祉関係団体、NPO・民間企業、PTA 等によるコンソーシアムを形成し、ネットワーク構築、事業目的・計画等の共有、事例紹介・意見交換による情報共有等を行った。

□プログラム「スウプノアカデミア」7回（検討会2回、実践5回）、成果報告会1回

スウプノアカデミア「ラフターヨガ」

| 活動の種類 | 日時、会場 | 活動内容 | 参加者数・属性ほか |
|---|---|---|---|
| まなびを考える会 | ①7月 14 日（日）<br>②7月 27 日（土）14:00-16:00<br>せんだいメディアテーク | 学習者となる障害のある人自身によるテーマの設定と意見交換 | （まなびを考える会含め）<br>延べ参加者数：169 人<br>（うち当事者 64 人、付添8人、ボランティア 26 人、その他参加者 24 人、見学者 12 人、講師2人、手話通訳者8人、運営スタッフ 25 人） |
| スウプノアカデミア | ①9月8日（日）10:00-12:00<br>仙台市生涯学習支援センター | ①「ラフターヨガ～笑いで心と体をほぐす」 | |
| | ②9月 29 日（日）15:00-17:00<br>仙台市太白区中央市民センター | ②「スポーツは気晴らし！？～つくって遊んでデポルターレ！」 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ③10 月 13 日（日）14:00-16:00<br>せんだいメディアテーク | ③「イヤな体験と、みんなの折り合い～ゆるやかな癒し方」 | ・当事者の障害種別：身体障害（肢体不自由、聴覚障害、視覚障害）、知的障害、発達障害、精神障害（高次脳機能障害含）<br><br>・当事者の属性：福祉施設利用者、企業就労者、学生、在宅生活者等<br><br>・ボランティア・見学者の属性：高校生、大学生、大学院生、福祉事業所職員、学校教員、社会教育主事、行政職員、会社員、当事者の家族等 |
| | ④11 月 24 日（日）10:00-13:00<br>仙台プレイボウル、カフェ | ④「ボウリングとコーヒーと。あなたと楽しみたい大人の休日」 | |
| | ⑤12 月 15 日（日）14:00-16:00<br>せんだいメディアテーク | ⑤「ワクワク妄想旅行会～理想の旅プランを立てよう」 | |

□共に学び、共に生きる「共生社会コンファレンス in 仙台」の実施
2025 年２月１日（土）10:30-16:00、会場：せんだいメディアテーク１階オープンスクエア
・参加者合計：102 人/定員 80 人
・参加者属性：行政関係者（教育委員会・首長部局）16、学校関係者５、大学 10、公民館等社会教育施設関係者５、社会福祉法人・NPO18、障害当事者 15、家族や付添６、一般参加者 12、他
・参加者居住地域：仙台市、宮城県、東京都、福島県、石川県、神奈川県、北海道、群馬県、静岡県、長野県、秋田県（順不同）

・概要：第１部：体験の共有「スウプノアカデミア 2024　成果発表会」、調査・実践報告「障害のある人と取り組む学びの活動 in 仙台」、第２部：おはなし「未来をひらく～よさのうみ福祉会の実践」（事例紹介）、考えるテーブル「あたりまえってなんだろう？」、ディスカッション、感想とおもいの共有時間、を構成した。「第７回障害芸術文化の大見本市」にあわせて開催し、オープンな空間のなかでの実施とした。

共生社会コンファレンス（せんだいメディアテーク）

□その他
・令和６年度東北大学社会教育主事講習の受講者を受け入れ、また実践においてもプログラム運営やボランティア活動に従事してもらった。
・広報活動として、仙台市と協働し①ウェブサイトでの周知、②チラシ配布、③メールでの周知、④グループウェアでの周知、⑤仙台市政だよりでの広報、などを行った。
・ボランティアの募集として NPO 中間支援、②社会福祉協議会、③大学ボランティアセンターを活用した。
・情報保障等につとめ、とくに手話通訳や要約筆記も活用した。
・本事業で定められた次のテーマにおいても、可能な限りの協力を行った（＊印）。
障害者の学びに関するニーズや実態，地域の学びの環境に関する調査研究の実施
特別支援学校等における児童生徒の生涯学習の意欲向上に資する取組の実施＊
障害者の学びを支援する人材の育成に資する研修の実施＊
障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築＊
読書や図書館等の利用や意思疎通に困難を伴う障害者の支援に関する取組の実施
・報告書を作成し公開した。
https://soup.ableart.org/program/2024nen/r6_sendai_syougaigakusyu/

報告書

**②宮城県教育委員会「学びを通じたみやぎの共生社会推進事業」（文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」受託）の協力**

年4回のコンソーシアムと準備会に委員として参加。本件で予算が捻出できなかった市町村で、芸術文化活動のニーズがあった地域においては、③の枠を通じて実践した。宮城県教育委員会、圏域の教育事務所、市町の生涯学習課との連携の仕組みができつつある。

**③芸術銀河 2024 出前講座　企画・運営**

主催：みやぎ県民文化創造の祭典実行委員会（芸術銀河）
共催：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン
協力：NPO 法人奏海の杜、一般社団法人 LINK、宮城県教育委員会

**□写奏カメラワークショップ**

・日時：2024 年 12 月 26 日（木）13:30-15:30
・会場：登米公民館2階和室（登米町寺池目子待井 391 番地）
・概要：簡易カメラを使用したワークショップ。会場内に、コスチューム、バルーン、ボール、ぬりえなどを用意し、参加する人たちがお互いに交流したり遊んだりしている様子をカメラで撮影し、発表。
・参加人数：合計 28 人(障害のある人 11 人、ボランティア4人、付添4人、事務局7人ほか）

**□展示と市民向けワークショップ（第20回記念登米市青年文化祭）**

・日時：2025 年2月2日（日）9:30-14:30
・会場：南方公民館　多目的ホール
・概要：12 月に開催したワークショップで撮影した写真の展示、また、そのワークショップの体験会。登米市青年文化祭の実行委員会にも参加することで、地域の方たちと障害のある人たちとの交流の接点が生まれた。
・来場者数：青年文化祭全体で 734 人（YouTube の視聴者数含む）、ワークショップ参加者数：約 50 人

## C. ［東北］宮城県・障害者芸術活動支援センター運営（受託事業）

**①相談支援**

宮城県内のべ 94 個人/団体、宮城県外のべ 63 個人/団体、合計 165 個人/団体
相談件数 165 件（前年度 177 件/前年度比 93%）
相談回数 789 回（前年度 558 件/前年度比 141%）

**②芸術文化活動を支援する人材の育成等**

SOUP の研修（全3回）
□第1回「他者の『よくわからない』行為や出来事を捉え直す、そのわからなさを楽しむ方法を考える」
・日時：2024 年 11 月1日（金）15:00-17:00
・会場：オンライン（zoom）
・参加人数：16 人
□第2回「障害のある人のアートの活用事例と著作権について学ぼう」
・日時：2025 年2月 26 日（水）15:00-17:00
・会場：みやぎハートフルセンター3階小会議室/オンライン（zoom）
・参加人数：会場 12 人、オンライン9人
□第3回「表現する人集合！活動内容とその意義をシェアしよう」
・日時：2025 年3月 27 日（木）13:30-15:30
・会場：オンライン（zoom）
・参加人数：17 人

SOUP の研修

**③関係者のネットワークづくり**

・令和6年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務協力委員会の実施
2024 年 10 月 28 日（月）10:00-12:00
・「文化芸術団体との協働の促進」「生涯学習としての協働の促進」に注力して実施。

**④芸術文化活動（鑑賞・創造・発表等）に参加する機会の確保**

催事名：第7回 障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市「きいて、みて、しって、見本市。」
・日時：2024 年1月 31 日（金）～2月5日（水）10：00-18：00
・会場：せんだいメディアテーク1階 オープンスクエア
・内容：[A]「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 仙台」[B]トーク「つくる・みる・はなす・いる ともに表現する場ってどんなところ？」[C]「手ではなすおはなしの会」[D]「みんなで話そう！新しい文化施設のこと」[E]「障害と芸術文化のブース」[F]「ニューカマーセブン」[G]「ひだまりのギフト展」[H]「としょかん・メディアテークによるバリアフリー資料展示」
・来場者数：3,352 人（6日間）

第7回「きいて、みて、しって、見本市。」

【実施主体】
[A]「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 仙台」 仙台市・生涯学習を通じた共生社会推進事業 文部科学省委託事業令和6年度「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」主催：仙台市教育委員会、文部科学省、共催：せんだいメディアテーク、後援：宮城県教育委員会、企画・運営：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン、協力:一般社団法人 NOOK
[B]トーク「つくる・みる・はなす・いる ともに表現する場ってどんなところ？」 主催：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン 助成：公益財団法人仙台市市民文化事業団（2024 年度文化芸術を地域に活かす創造支援事業）
[C]「手ではなすおはなしの会」 主催：仙台市民図書館、せんだいメディアテーク
[D]「みんなで話そう！新しい文化施設のこと」 主催：仙台市青葉山エリア複合施設整備室・防災環境都市推進室、企画協力：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン、協力：特定非営利活動法人ワンダーアート（あそびの場運営）
[E]「障害と芸術文化のブース」 主催：宮城県（令和6年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務）
[F]「ニューカマーセブン」 主催：宮城県（令和6年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務）
[G]「ひだまりのギフト展」 主催：宮城県（令和6年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務）
[H]「としょかん・メディアテークによるバリアフリー資料展示」 主催：仙台市民図書館、せんだいメディアテーク

**⑤情報収集・発信**

| ＜紙媒体＞ | 障害と芸術文化の大見本市チラシ配布先 |
|---|---|
| ・学校（仙台市管轄） | 仙台市特別支援学校・特別支援学級：生徒数 2,261 人 |
| ・学校（宮城県管轄） | 宮城県特別支援学級：児童・生徒数 2,975 人、宮城県特別支援学校（幼稚部、小・中・高校）・私立含：生徒数 2,634 人 |
| ・福祉、文化、教育関係機関（宮城県） | 仙台市内福祉施設 316 件、宮城県内福祉施設 175 件（それぞれ行政より最新データ入手後絞り込み） |
| ・行政、美術館、図書館等文化施設（仙台市） | 仙台市市民センター、区役所 障害高齢課、仙台市市民文化事業団関連文化施設への設置 |

## D. ［東北］そのほか

**①宮城県在住の障害のある人の発表・鑑賞・二次利用等の支援に係る取組**

・発表の機会（展示や公演）のサポート 6件
・鑑賞の機会のサポート 3件
・二次利用のサポート 7件

【特記】宮城県「令和6年度障害者アート作品を通じた相互理解促進業務」
・内容：障害者差別解消法や共生社会の県民理解を進めるため、障害のある人のアートの作品展の開催、商品化や広告媒体等の二次利用を進める事業において、支援センターとして作品展の公募の広報協力、障害のある作家や福祉事業所の契約のサポートなどを行った。
・作品展『わたしの中のバリアを外すのは、わたしだ。』
会期：2024 年 11 月 1 日（金）～11 月 17 日（日）
会場：仙台パルコ本館6階 PARCO SPACE6）

作品展「わたしの中のバリアを外すのは、わたしだ。」関連イベント（仙台パルコ本館）

**② 孤独・孤立対策に有効なアートワークショップ（WS）を地域で自走できるツールの開発・ 実証・普及に関する事業（内閣府交付金令和6年度 孤独・孤立対策担い手育成支援事業）～業務委託「アート WS 自走ツール等を用いた、WS 実証業務」**

2023 年度から、認定 NPO 法人全国こども食堂ネットワークむすびえを事務局とした「クリエイティブ・リンクワーカー協議会準備委員会」にオブザーバーとして参加。文化施設、アート NPO、こども食堂などの場において活動するアーティスト（音楽家、演劇人、美術家等）と、その活動を促進するコーディネータを育成し、政策提言していくための活動。2024 年度は、内閣府による助成のうち、「地域の NPO 中心の地域協働モデル」事業をの実践を行った。
□協働団体：ふうどばんく東北 AGAIN、一般社団法人アーツグラウンド東北、NPO 法人アートワークショップすんぷちょ、一般社団法人 PLAY ART!せんだい

□ワークショップ1
・日時：2024 年 11 月 23 日（土）15：00-17：00
・会場：JINA 食堂みんなあがいん(宮城県富谷市)
・内容：クリスマス・リース作りワークショップ／お絵描きワークショップ
アーティスト：門脇篤 （一社）アート・インクルージョン)ほか3人、ボランティア5人程度（こども含）

□ワークショップ2
・日時：2024 年 12 月 12 日(木) 16:30-18:30
・会場：宮城野子ども食堂 （於：宮城野区文化センター食堂および会議室/仙台市宮城野区）
・内容：いつもの子ども食堂で工作や明かりを使って遊ぼう！ 工作と上演「影絵シアターティッシュの箱・おおきなかぶ」
アーティスト：佐々木博美（宮城親子読書をすすめる会／紙芝居文化の会／大ちゃん文庫）

□ワークショップ3
・日時：2025 年1月 16 日(木) 16:30-18:30
・会場：宮城野子ども食堂 （於：宮城野区文化センター食堂および会議室/仙台市宮城野区）
・内容：いつもの子ども食堂で工作や明かりを使って遊ぼう！
アーティスト：高橋亜希（照明家）

## E. ［南東北・北関東］障害者芸術活動支援センターの南東北・北関東広域支援センター運営

南東北・北関東ブロックは、6県すべてに支援センターが設置されている。宮城県（2014[平成 26]年-）・栃木県（2017[平成 29]年-）・福島県（2019[平成 31]年-）・山形県（2020[令和2]年-）・群馬県（2023[令和5]年-）・茨城県（2023[令和5]年-）が活動した。広域センターは、2021[令和3]年度より当法人が運営している。
各県の支援センター担当者が、障害者文化芸術活動推進法の第2期計画に沿った総合的な環境整備に取り組むことができるよう、おもに人材育成に重きをおいて活動した。

【実施事業】
□南東北・北関東ブロック内の支援センターへの業務
ブロック会議と研修（全5回）、なんでも相談会（2回）、実践研究「出稽古」（5件）を実施し、支援センター担当者と自治体担当者等が積極的に参加し学びを得た。
・研修「協働型評価」はオンラインで7月と3月に実施。広域センターから各地域ごとの重点項目を提示し、年度当初にそれを補うための計画と指標をつくり、年度末に評価を行った。
・研修「アクセシビリティ」は、音楽・演劇・美術の複合文化施設のツアーおよび講義・意見交換を通じて、文化施設側の理念・機能・事業・アクセスプログラムに関する現状と成果・課題に触れた。2025 年1月 13 日、会場：水戸芸術館、参加者：19 人、講師：水戸芸術館職員（現代美術監督・音楽課・総務課、教育普及）で実施。
・実践研究「出稽古」の発表会を通じて支援センターの存在を社会的に発信し、かつ茨城県の機運醸成をはかるためにシンポジウム等を行った。

□支援センター発足2年目となる群馬県と茨城県への個別の支援
①群馬県の評価委員を担当（2年目）
②茨城県にて、シンポジウム＆ワークショップを実施
・シンポジウム（公開型）：2025 年1月 12 日、会場：水戸市民会館、参加者：75 人、講師：ブロック内各県支援センター担当者と茨城県実践者、事例報告およびディスカッション（後半は茨城県の参加者による）
・ワークショップ（公開型）：2025 年1月 12 日（午前・午後）、会場：水戸芸術館、参加者：65 人、ファシリテータ：BOB ho-ho

BOB ho-ho によるワークショップ

□全国連携事務局および広域ブロック支援センター（7ブロック）との連絡会議（全3回オンライン）

□事業パートナー：武田和恵（社福・愛泉会ギャラリーら・ら・ら/やまがたアートサポートセンターら・ら・ら/山形/AAJ 会員）、小林竜也（社福・安積愛育園/はじまりの美術館/福島）、梶原紀子・五味渕仁美（認定（NPO 法人もうひとつの美術館/とちぎアートサポートセンターTAM/栃木/AAJ 会員）、茨城県障害福祉課(茨城)、小堀幸子（NPO 法人ちいきの学校/茨城）、津田優希（ROKUROKURIN 合同会社/茨城）、吉田征雄（NPO 法人あめんぼ/群馬）、原風花（NPO 法人工房あかね）
（詳細）https://soup.ableart.org/program/2024nen/koikicenter/

## F. ［国際交流］
【イギリス】
イギリスのシェイプ・アーツからの仲介による、美術家・ジェイソン・ウィッシャー・ミルズさんと日本の作家との交流を継続（3年目）。エイブルアート・カンパニー登録作家とエイブル・アート・ジャパンの活動に参加する作家で、福祉施設などに属さない人を主な対象者として、メンタリングセッションを継続した。引き続き、イギリスでの日本作家・作品の展示計画に向けて活動を継続していく。

【韓国】
2024 年 10 月 18 日（金）～19 日（土）に韓国南西部にある扶安郡を訪問し、扶安郡文化財団主催のイベント「無境界フェスティバル」に参加。障害のある人の芸術文化活動に関わる人材の育成や、地方でのプログラムの開発、障害理解の向上を目指したイベントで、1日目の講義では、「日本の障害者芸術文化と地方創生」というテーマで、一般財団法人たんぽぽの家/社会福祉法人わたぼうしの会の森下静香さんとともに登壇した。エイブル・アート・ジャパンの発表では、「みんなでミュージアム」、障害のある人の生涯学習事業に

韓国扶安郡社会福祉館

ついて紹介した。2日目は障害のある人とない人が楽しめる音楽とダンスのパフォーマンスを視察し、扶安郡文化財団の職員や現地の障害のある人、その支援者らと交流した。

## 6. 調査研究事業

・2023 年度の調査研修事業は、企画事業化（受託）した。

## 7. 出版事業

・既存の書籍を販売した。
・［東北］での「みんなでつくるよ広場の人形劇！」の活動をまとめた冊子『みんなでつくるよ広場の人形劇！2018→2023 人形劇ワークショップの記録とそのつくりかた』（2024 年3月発行）を、仙台市内の書店を中心に販売した。
・播磨靖夫著『人と人のあいだに生きる—最終講義 エイブル・アート・ムーブメント』（2025 年1月 31 日発行、出版社：どく社）を買い取り、スタッフおよび関係者への紹介・販売。2023 年末に女子美術大学で行った講義録のほか、エイブル・アート・ムーブメントの思想、たんぽぽの家草創期に執筆した原稿が収録。

## 8. 助成事業

・フェリシモによる寄付「小さなアトリエ基金」を継続。
2023 年度の基金拠出先である「Ten Seeds」（石川県金沢市）のレポートを公開、2024 年度の基金の拠出先は「ほっとりんく」（東京都）。
・2024 年1月1日に発生した令和6年能登半島地震の被災地の支援のため、マスキングテープをチャリティーとしてイベント等で販売したものを寄付として受け取り、石川県の団体に渡した。

## 9. そのほか目的を達成するために必要な事業

### A. 情報発信にかかわる組織基盤整備について

コミュニティ形成（受益者・協働者ならびに会員・ボランティアの拡大）に向けて、①情報発信にかかわる仕組みの整備と研修、②顧客管理システム「Salesforce」の活用支援、③情報の整理と情報発信の運用方法の検討の内容で専門家にアドバイザーの依頼をして取り組んだ。
①では、情報発信の中心となる法人のウェブサイト(https://www.ableart.org/)の改修に向けて、その骨格となる方向性の検討に取り組んだ。スタッフ内でウェブサイトづくりに関する基礎知識を共有し、研修を通して作成した KPT やペルソナを元にサイトマップやワイヤーフレームの検討を行った。
②では、「Salesforce」の利用に際して、一括メール送信機能の利用で、より効果的なキャンペーン活動に取り組んだ。また、引き継ぎ体制の整備を始めた。
③では、Salesforce とウェブサイトのサーバー上にある情報の整理や、改変後のウェブサイトの構造や運用方法、Salesforce の運用方法などの方針の決定に取り組み始めた。
助成：日本 NPO センター「東日本大震災現地 NPO 応援基金 第4期・第3回助成

### B. ボランティア・インターンの受け入れ、事務局サポーターの設定

ボランティア・インターンを積極的に受け入れ、事業の参画者をふやしていくよう試みた。
・東京事務局では、事務所から近い明治学院大学ボランティアセンターを訪問し、アトリエ事業およびみんなでミュージアムの活動で連携した。
・東北事務局では、アトリエ事業およびスウプノアカデミアで、NPO 中間支援組織、社会福祉協議会、複数の大学のボランティアセンターと連携した。

### C. エイブル・アート・ムーブメントの協働団体との連携

一般財団法人たんぽぽの家による事業への協力（「Art for Well-being」事業、播磨靖夫さん出版記念会 ほか）

### D. 報告に関連する参考資料 （同封の「資料」参照）

以上